

# ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり/為替ヘッジなし)

## 運用報告書 (全体版) 第1期

(決算日 2018年12月10日)

(作成対象期間 2018年6月11日~2018年12月10日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/株式	
信託期間	約5年間(2018年6月11日~2023年6月9日)	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ. アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)の受益証券 ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ. アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)の受益証券 ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資し、値上がり利益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先(コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00~17:00)

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<2752>

<2753>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (配当込み、米ドルベース)		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
1期末(2018年12月10日)	円 9,098	円 0	% △9.0	9,229	% △7.7	% -	% 99.0	百万円 13,775

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

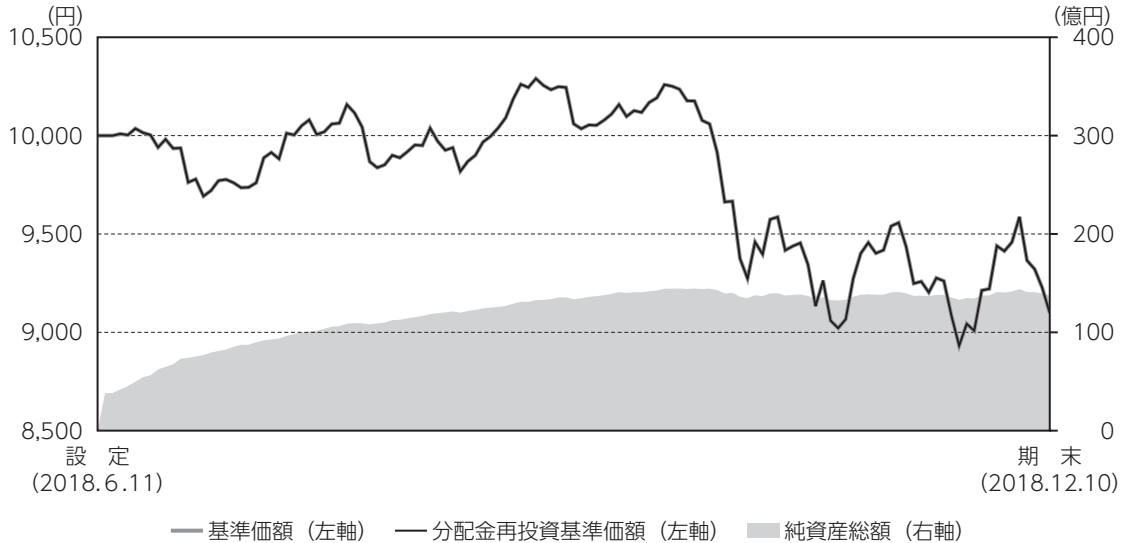
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：9,098円（分配金0円）

騰落率：△9.0%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期は、主にアジア、米国、欧州などの保有銘柄の株価が下落したことがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World 指数 (配当込み、米ドルベース)		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2018年 6月11日	円 10,000	% -	10,000	% -	% -	% -
6 月末	9,720	△2.8	9,681	△3.2	-	94.0
7 月末	9,868	△1.3	10,025	0.2	-	98.1
8 月末	10,255	2.6	10,152	1.5	-	98.0
9 月末	10,236	2.4	10,197	2.0	-	99.0
10 月末	9,066	△9.3	9,290	△7.1	-	99.3
11 月末	9,413	△5.9	9,532	△4.7	-	99.4
(期末) 2018年12月10日	9,098	△9.0	9,229	△7.7	-	99.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

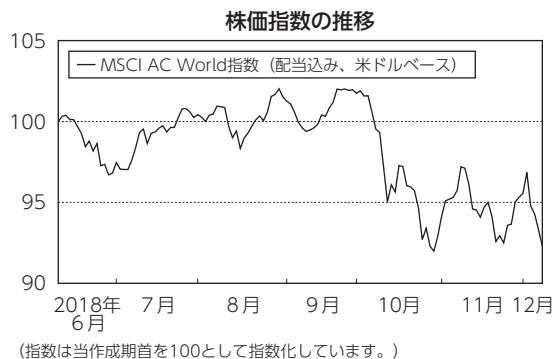
## 投資環境について

(2018.6.11~2018.12.10)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は、当作成期末にかけて下落しました。

2018年6月の設定当初は、グローバル株式市場は米中貿易摩擦の拡大や欧州でのポピュリズム政権の発足などが嫌気され、下落して始まりました。7月に入るとそれらの懸念が幾分後退し、米国を中心に良好な経済環境が続く中で企業業績も好調さを維持していることから、株式市場は上昇に転じました。米国では、USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）が合意に至ったことが買い安心感を与え、株式市場は9月末にかけておおむね上昇基調が続ききました。しかし10月に入ると、改めて米中貿易摩擦が企業業績の先行きに与える影響が懸念され、これまで市場の上昇を先導していたテクノロジー関連株が急落しました。この時期は多くの企業にとって決算発表前の自社株買い停止期間にあたり、自社株買いによる株価下支えが少なかったことも、米国株式市場のボラティリティ上昇の要因となりました。その他にも、イタリアの2019年度予算案を巡り財政規律に厳格なEU（欧州連合）との対立が深まったことや、英国のEU離脱交渉難航、米中貿易摩擦の激化への懸念等も、当作成期末にかけて株式市場を押し下げる要因となりました。



## ポートフォリオについて

(2018.6.11~2018.12.10)

### ■当ファンド

当ファンドは、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）とダイワ・マネーストック・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通して、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）を高位に組み入れました。

※フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）：アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドの主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、

## ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり）

フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。企業規模の面ではペイパルやビザのような大型株からフィネコ・バンクやソフォスなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではフィンテック関連企業の技術革新において先進的な地域である米国を中心に、グローバルに投資をしています。

当作成期中は、業界をリードする米国の決済サービス・プロバイダーのビザやワールドペイ、ドイツのワイヤーカード、イタリアのデジタル総合商業銀行フィネコ・バンク、保険業界向けにビッグデータ分析ソリューションを提供する米国のベリスク・アナリティクス、データ保護ソリューションを提供する米国のプルーフポイント、金融機関に資産管理ソフトウェアとサービスを提供するエンベストネットなどを組み入れました。一方、パフォーマンスが良好であったスイスのバンキング関連ソフトウェア・ソリューション企業のテメノスや米国のスクウェアなどについては、共に今後の力強い成長性がバリュエーションに十分に織り込まれたと判断して全売却し、利益を確定しました。

また、保有する実質外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため為替ヘッジを行いました。

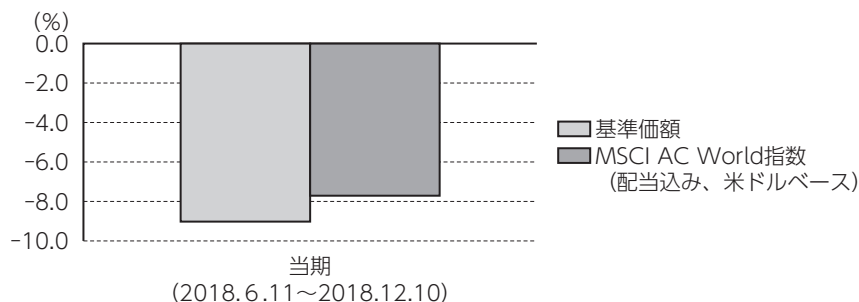
### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期は、分配対象額が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2018年6月11日 ～2018年12月10日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	—

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行う方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2018.6.11~2018.12.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	59円	0.606%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,770円です。
（投 信 会 社）	(19)	(0.189)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(40)	(0.406)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.005	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	60	0.611	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直前の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2018年6月11日から2018年12月10日まで)

		買 付		売 付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
国 内	アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)	14,947,086.072	14,863,000	-	-

(注1) 金額は受渡し代金。  
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年6月11日から2018年12月10日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
	0	1	-	-

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファ ン ド 名	当 期 末		
	□ 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券	千口	千円	%
アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)	14,947,086.072	13,640,710	99.0

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。  
(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	□ 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0	1

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	13,640,710	98.3
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	235,406	1.7
投資信託財産総額	13,876,118	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	13,876,118,427円
コール・ローン等	235,406,678
投資信託受益証券(評価額)	13,640,710,749
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	1,000
(B) 負債	100,355,960
未払解約金	27,535,872
未払信託報酬	72,323,624
その他未払費用	496,464
(C) 純資産総額(A - B)	13,775,762,467
元本	15,142,226,858
次期繰越損益金	△ 1,366,464,391
(D) 受益権総口数	15,142,226,858口
1万口当り基準価額(C / D)	9,098円

\* 期首における元本額は3,827,428,937円、当作成期間中における追加設定元本額は11,779,006,847円、同解約元本額は464,208,926円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,098円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,366,464,391円です。

■損益の状況

当期 自2018年6月11日 至2018年12月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 60,118円
受取利息	1,520
支払利息	△ 61,638
(B) 有価証券売買損益	△1,207,202,699
売買益	16,407,178
売買損	△1,223,609,877
(C) 信託報酬等	△ 72,896,776
(D) 当期損益金(A + B + C)	△1,280,159,593
(E) 追加信託差損益金	△ 86,304,798
(配当等相当額)	(△ 25,027)
(売買損益相当額)	(△ 86,279,771)
(F) 合計(D + E)	△1,366,464,391
次期繰越損益金(F)	△1,366,464,391
追加信託差損益金	△ 86,304,798
(配当等相当額)	(△ 25,027)
(売買損益相当額)	(△ 86,279,771)
繰越損益金	△1,280,159,593

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	0
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	0
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	0
(h) 受益権総口数	15,142,226,858口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (配当込み、円換算)		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
1 期末(2018年12月10日)	円 9,250	円 0	% △7.5	9,491	% △5.1	% -	% 99.0	百万円 82,127

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数（配当込み、円換算）は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

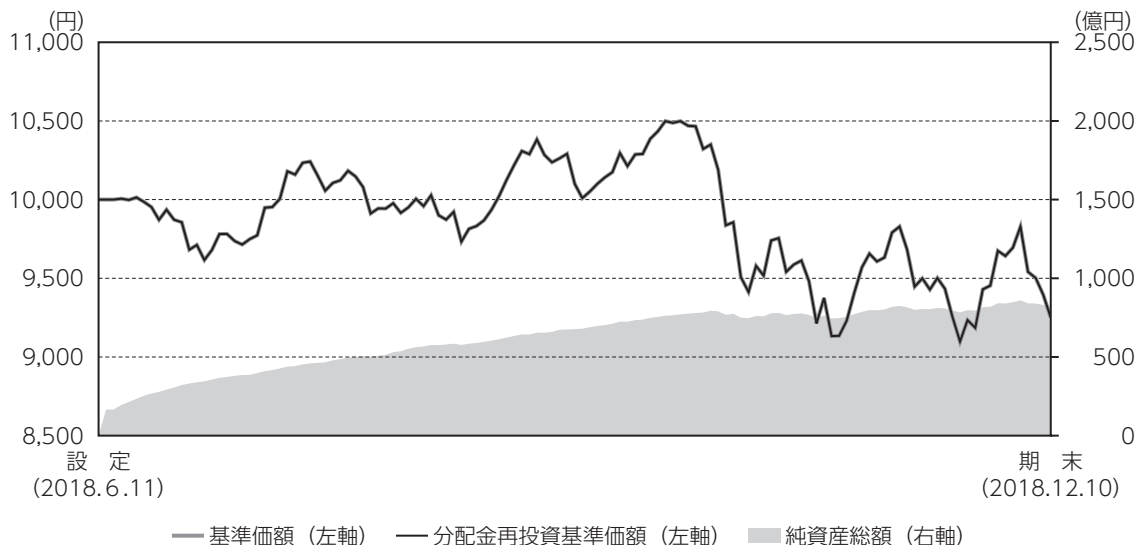
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：9,250円（分配金0円）

騰落率：△7.5%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期は、円安米ドル高がプラス要因となったものの、主にアジア、米国、欧州などの保有銘柄の株価が下落したことがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World 指数 (配当込み、円換算) (参考指数)		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		騰 落 率		騰 落 率		
(期首) 2018年 6月11日	円 10,000	% -	10,000	% -	% -	% -
6 月末	9,680	△3.2	9,781	△2.2	-	94.4
7 月末	9,912	△0.9	10,171	1.7	-	96.8
8 月末	10,284	2.8	10,305	3.1	-	97.5
9 月末	10,499	5.0	10,584	5.8	-	98.3
10 月末	9,230	△7.7	9,616	△3.8	-	99.0
11 月末	9,642	△3.6	9,885	△1.1	-	99.0
(期末) 2018年12月10日	9,250	△7.5	9,491	△5.1	-	99.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

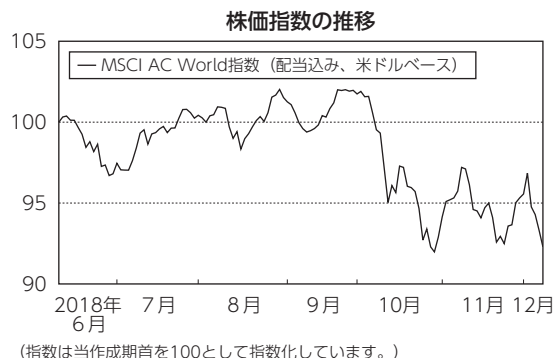
## 投資環境について

(2018.6.11~2018.12.10)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は、当作成期末にかけて下落しました。

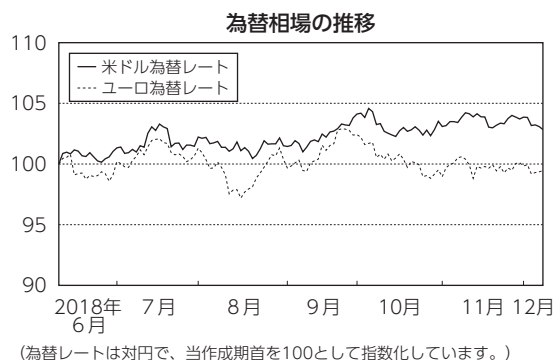
2018年6月の設定当初は、グローバル株式市場は米中貿易摩擦の拡大や欧州でのポピュリズム政権の発足などが嫌気され、下落して始まりました。7月に入るとそれらの懸念が幾分後退し、米国を中心に良好な経済環境が続く中で企業業績も好調さを維持していることから、株式市場は上昇に転じました。米国では、USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）が合意に至ったことが買い安心感を与え、株式市場は9月末にかけておおむね上昇基調が続きました。しかし10月に入ると、改めて米中貿易摩擦が企業業績の先行きに与える影響が懸念され、これまで市場の上昇を先導していたテクノロジー関連株が急落しました。この時期は多くの企業にとって決算発表前の自社株買い停止期間にあたり、自社株買いによる株価下支えが少なかったことも、米国株式市場のボラティリティ上昇の要因となりました。その他にも、イタリアの2019年度予算案を巡り財政規律に厳格なEU（欧州連合）との対立が深まったことや、英国のEU離脱交渉難航、米中貿易摩擦の激化への懸念等も、当作成期末にかけて株式市場を押し下げる要因となりました。



### ■為替相場

為替相場では、米ドル円は米ドル高円安が進行したものの、ユーロ円は小幅なユーロ安円高となりました。

米ドルについては、設定当初は米朝首脳会談の開催で市場に安心感が広がったことから円に対して上昇となったものの、その後は日銀の金融緩和策縮小検討との観測記事を受けたことや、米中貿易摩擦の激化が懸念され、下落しました。2018年9月には、米国雇用統計の結果を受けて長期金利が上昇すると米ドル買い先行となり、米ドルは円に対して大幅に上昇しました。10月に入り、米中貿易摩擦の激化や、米国の中間選挙に対する警戒感等から米ドルは円に対して下落したものでした。一方、ユーロは、ECB（欧州中央銀行）



設定時と比較して当作成期末は米ドル高円安となり  
理事会が利上げに慎重姿勢を示したとみられたこと

から、円に対して下落して始まりました。その後、ドイツ政権の内部崩壊リスクやイタリアのユーロ離脱リスクが緩和したことで徐々にユーロは上昇しました。8月はイタリアの財政懸念などからユーロは一時大幅に下落したものの、懸念が後退したことで反騰する展開となりました。10月に入り、英国のEU離脱を巡る協議が難航したことや、イタリアの財政赤字を巡る政局の混乱などから、再びユーロは円に対して下落しました。結果として、設定時と比較して当作成期末は小幅の下落となりました。

## ポートフォリオについて

(2018.6.11~2018.12.10)

### ■当ファンド

当ファンドは、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）とダイワ・マネースtock・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通して、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）を高位に組み入れました。

※フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドの主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。企業規模の面ではペイパルやビザのような大型株からフィネコ・バンクやソフォスなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではフィンテック関連企業の技術革新において先進的な地域である米国を中心に、グローバルに投資をしています。

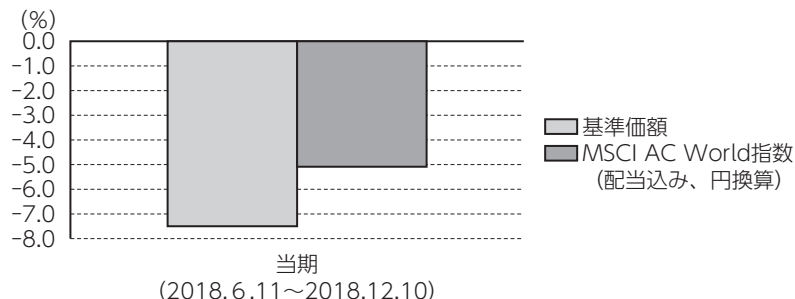
当作成期中は、業界をリードする米国の決済サービス・プロバイダーのビザやワールドペイ、ドイツのワイヤーカード、イタリアのデジタル総合商業銀行フィネコ・バンク、保険業界向けにビッグデータ分析ソリューションを提供する米国のベリスク・アナリティクス、データ保護ソリューションを提供する米国のプルーフポイント、金融機関に資産管理ソフトウェアとサービスを提供するエンベストネットなどを組み入れました。一方、パフォーマンスが良好であったスイスのバンキング関連ソフトウェア・ソリューション企業のテメノスや米国のスクウェアなどについては、共に今後の力強い成長性がバリュエーションに十分に織り込まれたと判断して全売却し、利益を確定しました。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期は、分配対象額が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2018年6月11日 ～2018年12月10日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（%）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	—

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。





## 今後の運用方針

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行う方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018.6.11~2018.12.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	60円	0.606%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,866円です。
（投 信 会 社）	(19)	(0.189)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(40)	(0.406)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.002	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	60	0.609	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2018年6月11日から2018年12月10日まで)

		買 付		売 付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
国 内	アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	87,779,510.445	87,344,000	-	-

(注1) 金額は受渡し代金。  
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2018年6月11日から2018年12月10日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
	0	1	-	-

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファ ン ド 名	当 期 末		
	□ 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券	千口	千円	%
アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	87,779,510.445	81,310,160	99.0

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。  
(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	□ 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0	1

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	81,310,160	98.4
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	1,285,184	1.6
投資信託財産総額	82,595,345	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	82,595,345,698円
コール・ローン等	1,285,184,173
投資信託受益証券(評価額)	81,310,160,525
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	1,000
(B) 負債	468,230,485
未払解約金	88,381,160
未払信託報酬	378,684,703
その他未払費用	1,164,622
(C) 純資産総額(A - B)	82,127,115,213
元本	88,787,056,415
次期繰越損益金	△ 6,659,941,202
(D) 受益権総口数	88,787,056,415口
1万口当り基準価額(C / D)	9,250円

\* 期首における元本額は16,658,951,215円、当作成期間中における追加設定元本額は73,590,631,093円、同解約元本額は1,462,525,893円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,250円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は6,659,941,202円です。

■損益の状況

当期 自2018年6月11日 至2018年12月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 398,336円
受取利息	5,854
支払利息	△ 404,190
(B) 有価証券売買損益	△6,018,019,078
売買益	35,599,990
売買損	△6,053,619,068
(C) 信託報酬等	△ 380,204,391
(D) 当期損益金(A + B + C)	△6,398,621,805
(E) 追加信託差損益金	△ 261,319,397
(配当等相当額)	(△ 235,234)
(売買損益相当額)	(△ 261,084,163)
(F) 合計(D + E)	△6,659,941,202
次期繰越損益金(F)	△6,659,941,202
追加信託差損益金	△ 261,319,397
(配当等相当額)	(△ 235,234)
(売買損益相当額)	(△ 261,084,163)
繰越損益金	△6,398,621,805

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	0
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	0
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	0
(h) 受益権総口数	88,787,056,415口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド

## 運用報告書 第9期 (決算日 2018年12月10日)

(作成対象期間 2017年12月12日～2018年12月10日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

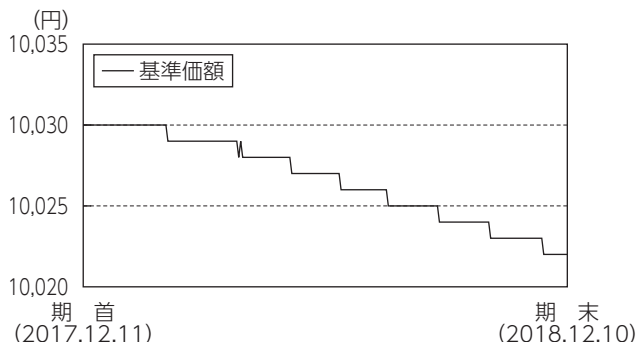
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準価額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2017年12月11日	円	%	%
	10,030	-	-
12月末	10,030	0.0	-
2018年 1 月末	10,030	0.0	-
2 月末	10,029	△0.0	0.5
3 月末	10,029	△0.0	-
4 月末	10,028	△0.0	-
5 月末	10,027	△0.0	-
6 月末	10,026	△0.0	-
7 月末	10,025	△0.0	-
8 月末	10,025	△0.0	-
9 月末	10,024	△0.1	-
10 月末	10,023	△0.1	-
11 月末	10,022	△0.1	-
(期末)2018年12月10日	10,022	△0.1	-

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。  
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆ 基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,030円 期末：10,022円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

マイナス金利環境が継続したことなどから、基準価額は下落しました。

◆ 投資環境について

○ 国内短期金融市場

当作成期首より、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持し、2018年7月には金融緩和継続のための枠組み強化を決定しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆ 前作成期末における「今後の運用方針」

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

◆ ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行いました。

◆ ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■ 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	4 (4)
合 計	4

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。  
 (注2) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況

公 社 債

(2017年12月12日から2018年12月10日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	国債証券	570,003	(570,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

公 社 債

(2017年12月12日から2018年12月10日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄 金 額	銘	柄 金 額
	千円		千円
723	国庫短期証券 2018/3/5		220,001
757	国庫短期証券 2018/8/13		200,001
731	国庫短期証券 2018/7/10		150,000

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	41,081,960	100.0
投資信託財産総額	41,081,960	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	41,081,960,031円
コール・ローン等	41,081,960,031
(B) 負債	22,652,366
未払解約金	20,000,000
その他未払費用	2,652,366
(C) 純資産総額(A - B)	41,059,307,665
元本	40,969,233,796
次期繰越損益金	90,073,869
(D) 受益権総口数	40,969,233,796口
1口当たり基準価額(C / D)	10,022円

\* 期首における元本額は30,015,878,475円、当作成期間中における追加設定元本額は79,229,641,363円、同解約元本額は68,276,286,042円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ米国担保付貸付債権ファンド(為替ヘッジあり) 3,021,993円、ダイワ米国担保付貸付債権ファンド(為替ヘッジなし) 1,018,149円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり) 2014-07 9,963円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり) 2014-09 9,963円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり) 2014-11 9,962円、ロボット・テクノロジードットコム・インデックス・ファンド(為替ヘッジあり) 998円、ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジなし) 998円、新興国ソブリン・豪ドルファンド(毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ブラジルリアルファンド(毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型) 999円、US 短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型) 102,434円、US 短期高利回り社債ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型) 1,994円、ロボット・テクノロジードットコム・インデックス・ファンド(為替ヘッジあり) 39,849円、ロボット・テクノロジードットコム・インデックス・ファンド(年1回決算型) (為替ヘッジあり) 3,985円、iFreeレバレッジ S & P 500 9,976,058円、ダイワ上場投信-日経平均レバレッジ・インデックス6,480,317,774円、ダイワ上場投信-日経平均ダブルインバース・インデックス3,588,745,910円、ダイワ上場投信-TOP I Xレバレッジ(2倍) 指数1,873,252,277円、ダイワ上場投信-TOP I Xダブルインバース(-2倍) 指数602,505,046円、ダイワ上場投信-日経平均インバース・インデックス3,957,907,355円、ダイワ上場投信-TOP I Xインバース(-1倍) 指数3,685,167,742円、ダイワ上場投信-J P X日経400レバレッジ・インデックス323,527,433円、ダイワ上場投信-J P X日経400インバース・インデックス2,008,932,965円、ダイワ上場投信-J P X日経400ダブルインバース・インデックス208,181,200円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(部分為替ヘッジあり) 2016-07 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(部分為替ヘッジあり) 2017-06 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2016-10 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(部分為替ヘッジあり) 2016-10 997円、ダイワ日本株式ペア・ファン

ド(適格機関投資家専用) 3,619,070,901円、低リスク型アロケーションファンド(金利トレンド判断付き/適格機関投資家専用) 199,401,795円、ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S Lトレード - 56,086,003円、ダイワ/モルガン・スタンレー新興4カ国不動産関連ファンド-成長の楯音(つちおと) - 5,020,480円、ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ168,192,739円、ダイワ・アセアン内閣関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ151,817,656円、低リスク型アロケーションファンド(適格機関投資家専用) 13,958,125,625円、通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 豪ドル・コース(毎月分配型) 595,106円、通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII ブラジル・リアル・コース(毎月分配型) 987,373円、通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 通貨セレクト・コース(毎月分配型) 494,581円、ダイワUS 短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型) 9,957円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジあり) 997円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジなし) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジあり) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジなし) 997円、ダイワ/ミレーアセット亜細亜株式ファンド9,958,176円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり49,806円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし49,806円、通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) 米ドル・コース1,989,053円、通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) ブラジル・リアル・コース2,978,118円、通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) 通貨セレクト・コース1,691,241円、ロボット・テクノロジードットコム・インデックス(年1回決算型) - ロボテック(年1回) - 100,588円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり(毎月分配型) 399,083円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし(毎月分配型) 99,771円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 円ヘッジコース(毎月分配型) 399,083円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクトコース(毎月分配型) 99,771円、ダイワ/ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジあり) 1,091,429円、ダイワ/ミレーアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジなし) 315,004円、ダイワ/ミレーアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド10,009,811円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 日本円・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース(毎月分配型) 99,691円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- ブラジル・リアル・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 米ドル・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- コース(毎月分配型) 1,993,820円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 日本円・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 豪ドル・コース200,861円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 ブラジル・リアル・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 米ドル・コース1,999,177円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース505,900円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,022円です。

■損益の状況

当期 自2017年12月12日 至2018年12月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 21,014,406円
受取利息	30,196
支払利息	△ 21,044,602
(B) 有価証券売買損益	△ 2
売買損	△ 2
(C) その他費用	△ 16,468,861
(D) 当期損益金(A + B + C)	△ 37,483,269
(E) 前期繰越損益金	91,400,424
(F) 解約差損益金	△184,462,233
(G) 追加信託差損益金	220,618,947
(H) 合計(D + E + F + G)	90,073,869
次期繰越損益金(H)	90,073,869

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。



■当ファンドの仕組みは次の通りです。

	為替ヘッジなし	為替ヘッジあり
商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	約5年(2023年6月8日まで)	
運用方針	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド(以下、「マザーファンド」)の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式(DR(預託証券))を含みます。以下同じ。)および株式関連証券
ベビーファンドの運用方法	1. 主として、マザーファンドの受益証券を通じて日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式(DR(預託証券))を含みます。)に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。 ※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。	2. マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。
	3. 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	3. 実質組入外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。 ※一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わない、または他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。
マザーファンドの運用方法	4. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。	
	1. 主として、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。 ※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。	
組入制限	2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。	
	イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式の中から、金融・経済情勢などを勘案した上で、フィンテック分野で長期にわたり成長の可能性を有する企業群を選定します。その中から、流動性の低い銘柄を除外したものを投資対象銘柄として選定します。	
	ロ) 投資対象銘柄の中から、詳細なファンダメンタル企業分析を行い、中長期的な収益成長性、フィンテック分野における優位性、新しい技術を開発または活用する能力、市場をリードする商品・サービスの有無、強力な経営陣などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。	
	ハ) 選定した組入候補銘柄から、株価の上昇期待度や下落の余地、ポートフォリオ全体のリスクなどを考慮して、確信度に基づいて組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。	
	3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。	
	4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリに運用の指図に関する権限を委託します。	
配分方針	5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
	6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。	
	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率 無制限 マザーファンドの株式組入上限比率 無制限	
	毎決算時に原則として以下の方針に基づき配分を行います。 ①配分対象額の範囲内は繰越分を含めた利益、配当等収益と売買益(繰越欠損補填後、評価損益を含む)等の金額とします。 ②配分金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては配分を行わないこともあります。将来の配分金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

# アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド (為替ヘッジなし／為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

## 運用報告書 (全体版)

第1期(決算日 2018年11月12日)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)」は、このたび第1期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のフィンテック関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
東京都港区白田1-17-3 NBFプラチナタワー14階  
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》  
電話番号：03-5447-3160  
受付時間：9：00～17：00(土日祭日を除く)

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	税 分 配 金		株 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落 中 率	期 騰 落 中 率		
(設 定 日) 2018年 6 月 12 日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 16,658
1 期(2018年11月12日)	9,694	0	△3.1	93.8	80,568

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	株 組 入 比 率
6 月 末	9,649	△3.5	95.3
7 月 末	9,903	△1.0	95.3
8 月 末	10,292	2.9	94.2
9 月 末	10,518	5.2	94.0
10 月 末	9,234	△7.7	95.1
(期 末) 2018年11月12日	9,694	△3.1	93.8

(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は設定日比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	税 分 配 金		株 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率		
(設 定 日) 2018年 6 月 12 日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 3,827
1 期(2018年11月12日)	9,459	0	△5.4	94.4	13,824

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		株 組 入 比 率
		騰 落	率	
(設 定 日) 2018年 6 月 12 日	円 10,000	% —	% —	% —
6 月 末	9,696	△3.0		95.1
7 月 末	9,863	△1.4		95.1
8 月 末	10,267	2.7		93.5
9 月 末	10,258	2.6		94.8
10 月 末	9,084	△9.2		94.8
(期 末) 2018年11月12日	9,459	△5.4		94.4

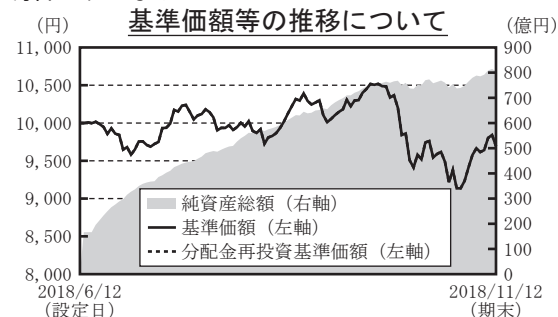
(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は設定日比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2018年6月12日～2018年11月12日）

為替ヘッジなし

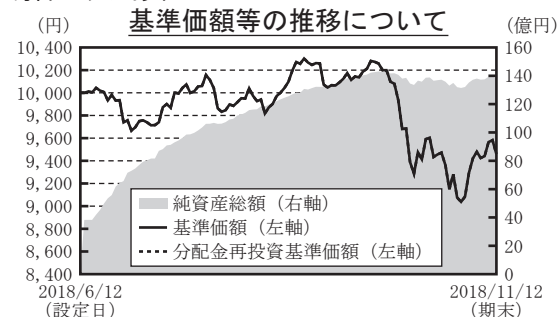


設定日：10,000円

期末：9,694円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：△3.1%（分配金再投資ベース）

為替ヘッジあり



設定日：10,000円

期末：9,459円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：△5.4%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

○為替ヘッジなし

当期は、円安ドル高がプラス要因となったものの、主にアジア、米国、欧州など、日本以外の保有銘柄の株価が下落したことがマイナス要因となり、基準価額は値下がりしました。

○為替ヘッジあり

当期は、主にアジア、米国、欧州など、日本以外の保有銘柄の株価が下落したことがマイナス要因となり、基準価額は値下がりしました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

2018年6月のファンド設定当初は、グローバル株式市場は米中貿易摩擦の拡大や欧州でのポピュリズム政権の発足などが嫌気され、冴えない展開となりました。しかし7月に入るとそれらの懸念が幾分後退し、米国を中心に良好な経済環境が続く中、企業業績も好調さを維持していることから、株式市場は上昇に転じました。米国では、カナダ・メキシコと「米国・カナダ・メキシコ協定（USCMA）」が合意に至ったことが買い安心感を与え、株式市場は9月末にかけて概ね上昇基調が続きました。ところが、10月に入り、改めて米中貿易摩擦が企業業績の先行きに与える影響が懸念され、これまで市場の上昇を先導していたテクノロジー関連株が急落しました。この時期は多くの企業にとって決算発表前の自社株買い停止期間にあたり、自社株買いによる株価下支えが少なかったことも米国株式市場のボラティリティ上昇の要因となりました。その他にも、イタリアの2019年度予算案をめぐる財政規律に厳格な欧州連合（EU）との対立が深まり、英国ではEU離脱交渉が難航するなど、株式市場を押し下げる要因となりました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の110円台から期末には113円台、ユーロ・円レートは期初の129円台から期末には128円台となりました。

米ドルについては、期初は米朝首脳会談の開催で市場に安心感が広がったことから円に対して上昇となったものの、その後は日銀の金融緩和策縮小検討との観測記事を受けたことや、米中貿易戦争激化が懸念され、下落しました。9月には米国雇用統計の結果を受けて長期金利が上昇するとドル買い先行となり、ドルは円に対して大幅に上昇しました。10月に入り、米中貿易摩擦の激化や、米国の中間選挙に対する警戒感等から円に対して下落したものの、期初と比較して円安ドル高となりました。一方、ユーロは、欧州中銀理事会が利上げに慎重姿勢を示したと見られたことから円に対して下落から始まりまし。その後、独政権の内部崩壊リスクや

イタリアのユーロ離脱リスクが緩和したことで徐々にユーロは上昇しました。8月はイタリアの財政懸念などからユーロは一時大幅に下落したものの、懸念が後退したことでV字回復となりました。10月に入り、英国のEU離脱を巡る協議が難航したことや、イタリアの財政赤字を巡る政局の混乱等から、再びユーロは円に対して下落しました。結果として、期末は期初と比較して小幅の下落となりました。

### 【ポートフォリオについて】

#### ○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

#### ○アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけでなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。企業規模の面ではペイパルやビザのような大型株からフィネコ・バンク、ソフォスなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではフィンテック関連企業の技術革新において先進的な地域である米国を中心に、グローバルに投資をしています。

期中は、業界をリードする米国の決済サービス・プロバイダーのビザやワールドペイ、ドイツのワイヤーカードや、イタリアのデジタル総合商業銀行フィネコ・バンク、保険業界向けにビッグデータ分析ソリューションを提供する米国のベリリスク・アナリティクス、データ保護ソリューションを提供する米国のブルーポイント、金融機関に資産管理ソフトウェアとサービスを提供するエンベストネットなどを組み入れました。一方、パフォーマンスが良好であったスイスのバンキング関連ソフトウェア・ソリューション企業のテメノスや、米国のスクウェアなどについては、共に今後の力強い成長性がバリュエーションに十分に織り込まれたと判断し全売却、利益を確定しました。

### 【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

### 【分配金】

#### ○為替ヘッジなし

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

		第1期
		2018年6月12日～2018年11月12日
当期分配金		—
(対基準価額比率)		—%
当期の収益		—
当期の収益以外		—
翌期繰越分配対象額		12

(注1) 「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

○為替ヘッジあり

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第1期	
		2018年6月12日～2018年11月12日	
当期分配金		—	
	（対基準価額比率）	—%	
	当期の収益	—	
	当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額		11	

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

○アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細（2018年6月12日～2018年11月12日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	24円	0.237%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は9,940円です。
（投 信 会 社）	(23)	(0.228)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	( 0)	(0.000)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	( 1)	(0.009)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	10	0.103	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	(10)	(0.103)	
そ の 他 費 用	1	0.010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	( 0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	( 1)	(0.009)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	35	0.351	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■ 売買及び取引の状況（2018年6月12日～2018年11月12日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド	82,923,463	82,544,000	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2018年6月12日～2018年11月12日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	99,657,587千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	67,308,813千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	1.48

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2018年6月12日～2018年11月12日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2018年6月12日～2018年11月12日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2018年11月12日現在）

親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	千口 82,923,463	千円 80,336,251

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。



■投資信託財産の構成

（2018年11月12日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	80,336,251	99.5
コール・ローン等、その他	369,946	0.5
投資信託財産総額	80,706,198	100.0

（注1）評価額の単位未満は切捨て。

（注2）アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建資産（89,734,402千円）の投資信託財産総額（94,449,691千円）に対する比率は、95.0%です。

（注3）外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=113.94円、1オーストラリアドル=82.29円、1香港ドル=14.55円、1シンガポールドル=82.62円、1英ポンド=147.39円、1デンマーククローネ=17.29円、1ノルウェークローネ=13.50円、1スウェーデンクローナ=12.54円、100インドネシアルピア=0.78円、1ポーランドズロチ=30.07円、1ユーロ=128.96円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2018年11月12日現在）

項 目	当 期 末
(A) 資 産	80,706,198,073円
コール・ローン等	369,946,372
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド(評価額)	80,336,251,701
(B) 負 債	137,429,645
未払信託報酬	136,819,118
その他未払費用	610,527
(C) 純資産総額(A-B)	80,568,768,428
元 本	83,107,973,576
次期繰越損益金	△ 2,539,205,148
(D) 受益権総口数	83,107,973,576口
1万口当り基準価額(C/D)	9,694円

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 設定時元本額    | 16,658,000,000円 |
| 期中追加設定元本額    | 66,449,973,576円 |
| 期中一部解約元本額    | —円              |
| 2. 1口当たり純資産額 | 0.9694円         |

■損益の状況

当期（自 2018年6月12日 至 2018年11月12日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 25,420円
支 払 利 息	△ 25,420
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 2,207,748,299
売 買 損 益	△ 2,207,748,299
(C) 信 託 報 酬 等	△ 137,457,854
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△ 2,345,231,573
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 193,973,575
(配 当 等 相 当 額)	(△ 5,996)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 193,967,579)
(F) 計 (D+E)	△ 2,539,205,148
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	△ 2,539,205,148
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 193,973,575
(配 当 等 相 当 額)	( 32,416,164)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 226,389,739)
分 配 準 備 積 立 金	72,496,763
繰 越 損 益 金	△ 2,417,728,336

（注1）損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注3）損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注4）計算期間末における費用控除後の配当等収益（72,496,763円）、費用控除後の有価証券等損益額（0円）、信託約款に規定する収益調整金（32,416,164円）および分配準備積立金（0円）より分配対象収益は104,912,927円（10,000口当たり12.62円）ですが、当期に分配した金額はありません。

■ 1万口当たりの費用明細（2018年6月12日～2018年11月12日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	23円	0.237%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は9,868円です。
（投 信 会 社）	(22)	(0.228)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	( 0)	(0.000)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	( 1)	(0.009)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	11	0.108	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	(11)	(0.108)	
そ の 他 費 用	1	0.014	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	( 0)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	( 1)	(0.009)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	35	0.359	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■ 売買及び取引の状況（2018年6月12日～2018年11月12日）

(1) 為替先渡取引

種 類	当 期
	取 引 契 約 金 額
直 物 為 替 先 渡 取 引	百万円 △228

(注) 単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	14,391,987	14,313,000	76,154	80,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2018年6月12日～2018年11月12日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	99,657,587千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	67,308,813千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	1.48

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2018年6月12日～2018年11月12日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2018年6月12日～2018年11月12日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2018年11月12日現在）

(1) 為替先渡取引

種 類	取 引 契 約 残 高
	当 期 末 想 定 元 本 額
直 物 為 替 先 渡 取 引	百万円 △225

(注) 単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	千口 14,315,833	千円 13,869,179

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2018年11月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	13,869,179	98.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	147,772	1.1
投 資 信 託 財 産 総 額	14,016,951	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建資産（89,734,402千円）の投資信託財産総額（94,449,691千円）に対する比率は、95.0%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=113.94円、1オーストラリアドル=82.29円、1香港ドル=14.55円、1シンガポールドル=82.62円、1英ポンド=147.39円、1デンマーククローネ=17.29円、1ノルウェークローネ=13.50円、1スウェーデンクローナ=12.54円、100インドネシアルピア=0.78円、1ポーランドズロチ=30.07円、1ユーロ=128.96円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2018年11月12日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	27,222,645,833円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	144,762,384
アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド(評価額)	13,869,179,245
未 収 入 金	13,208,704,204
(B) 負 債	13,398,466,480
未 払 金	13,370,900,380
未 払 信 託 報 酬	26,977,518
そ の 他 未 払 費 用	588,582
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	13,824,179,353
元 本	14,615,212,508
次 期 繰 越 損 益 金	△ 791,033,155
(D) 受 益 権 総 口 数	14,615,212,508口
1万口当り基準価額(C/D)	9.459円

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 設定時元本額    | 3,827,000,000円  |
| 期中追加設定元本額    | 10,788,212,508円 |
| 期中一部解約元本額    | －円              |
| 2. 1口当たり純資産額 | 0.9459円         |

■損益の状況

当期(自 2018年6月12日 至 2018年11月12日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 13,255円
支 払 利 息	△ 13,255
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△696,607,304
売 買 益	234,282,366
売 買 損	△930,889,670
(C) 先 物 取 引 等 損 益	△ 4,604,806
取 引 益	4,907,310
取 引 損	△ 9,512,116
(D) 信 託 報 酬 等	△ 27,595,282
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△728,820,647
(F) 追加信託差損益金	△ 62,212,508
(配 当 等 相 当 額)	(△ 2,484)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 62,210,024)
(G) 計 (E+F)	△791,033,155
次 期 繰 越 損 益 金(G)	△791,033,155
追加信託差損益金	△ 62,212,508
(配 当 等 相 当 額)	( 4,308,306)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 66,520,814)
分 配 準 備 積 立 金	12,586,450
繰 越 損 益 金	△741,407,097

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益（12,586,450円）、費用控除後の有価証券等損益額（0円）、信託約款に規定する収益調整金（4,308,306円）および分配準備積立金（0円）より分配対象収益は16,894,756円（10,000口当たり11.56円）ですが、当期に分配した金額はありません。

■親投資信託の運用報告書の開示について

当ファンド設定日以降に始まる計算期間中に、アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドは決算を行っていないため、本運用報告書作成時点において記載すべき情報はございません。